創始者ベーデン・パウエル卿を想う

～　スカウトサンデーに寄せて　～

ボーイスカウト東京港第１団
名誉団委員長　　杉原　正

【2月22日を記念して】

2月22日は、私たち霊南坂スカウト（ボーイスカウト東京港第１団、ガールスカウト東京都第４団、霊南坂スカウトクラブなど）関係者にとっては霊南坂教会でスカウト活動が始まった日として記念する日であります。

また2月22日は、スカウト運動に関わる世界中のスカウト、ガイド、指導者にとって特別な記念する日でもあります。

20世紀初頭に英国において始まったスカウト運動の創始者ベーデン・パウエル卿（以下B－P）の誕生日であり、彼が生まれ育った時代は近代が現代へと変わりつつある変動の時でした。

創始者によるスカウト運動は、創立された1908年の年が明けてからの数か月間で、英国国内ではボーイズ・ブリゲードやＹＭＣＡによって組織された班や隊が次々に誕生していきました。しかし、自主的に組織された班や隊の数がすぐ、それを上回っていきました。2年後には、スカウト数が英国国内だけでも10万人に成長します。

【海外へスカウト運動の拡大】

スカウト運動は、海外への拡がりを見せ“An Official History of Scouting（英国スカウト連盟編）”によると、先ず初めはオーストラリア、カナダ、ニュージーランド、インド、南アフリカなどの大英帝国の国々へ、そしてその次は、1909年のチリを皮切りにその他の国々へと広まっていきました。

スカウト運動の創始者を想い、世界各地でB－Pの誕生日である2月22日を記念して「B－P祭」、「シンキングデー」など名称は異なりますが実施されています。　世界スカウト機構では各国スカウト連盟が創始者の思い、提唱されたスカウト運動の理念を覚えて記念し、「世界友情の日」、「世界平和の日」などとして1週間程度の様々なプログラムが展開されるよう要請しています。

B－P のボーイスカウト運動の理念は、最も愛したスカウト宛の“最後のメッセージ”に凝縮して示されています。

【第1次世界大戦の勃発】

1914年6月28日、ボスニアの首都サラエボを訪問中のオーストリア皇太子がセルビアの青年の銃弾で殺害されたことを契機に、バルカン戦争が起り、ヨーロッパ戦争へ、そして世界大戦、いわゆる第1次世界大戦の勃発と拡大します。　二分されたのは、同盟国側と連合国側との戦いであります、

＜同盟国側＞　ドイツ、オーストリア、トルコ、ブルガリア

＜連合国側＞　イギリス（インドなどの自治領・植民地を含む）、フランス（植民地を含む）、ロシア、ベルギー、セルビア、イタリア、ルーマニア、ポルトガル、ギリシャ、アメリカ、日本

1919年6月28日、ヴェルサイユ宮殿で対ドイツ講和条約が調印され、約5年の間にこの大戦で軍人だけで約1000万人以上の戦死（一般人を含めると約1300万人以上の死者）を出した第1次世界大戦は正式に終結しました。

＜戦死者＞　ドイツ294万、ロシア180万、オーストリア146万、フランス141万、イギリス93万、イタリア46万、トルコ33万、セルビア25万、ルーマニア25万、アメリカ12万、ブルガリア9万、ベルギー4万、ギリシャ2.5万、ポルトガル1.3万、日本　約1000人

この世界大戦での戦死者の7割は20歳から24歳の青年層であり、そこには多くの学生、市民層出身者の若者も含まれています。　例えば、オックスフォード大学の志願兵の戦死率は平均戦死率の2倍近く、大戦後の英国社会では将来エリートとなるべき人々の減少に繋がっています。

【ローランド・フィリップスの戦死】

第1次世界大戦に関わったスカウトは約25万人に上ったと推定され、また多くのスカウトたちが戦地から戻らず、約1万人のスカウトが、ヨーロッパ中の戦没者墓地に埋葬される結果となっています。

B－Pは、英国初期のボーイスカウトたちが数多く戦死したことに、とくに心を痛めています。

「The Patrol System and Letters to a Patrol Leader　（パトロール・システムおよび班長への手紙）」の著者ローランド・フィリップスは1916年7月7日フランス戦線において26歳で戦死しました。彼は英国初期のスカウトであり、ロンドンのイースト・エンドというスラム街の恵まれない少年たちのため、献身的な奉仕をし、今日残るローランド・ハウスという記念館とともに、クリスチャンとして、またスカウトとして輝く業績を残した人であります。

もう一人のこと。ジョン・トラバース・コーンウエルは、ロンドン西にあるレイトンで生れ、同年代の少年同様に熱心なスカウト隊員となりました。
家庭が貧しかったため15歳で志願し、訓練を終えた後、見習水兵となり、海軍

の新造の軽巡洋艦チェスター号に乗り組む任務を命じられました。　デンマークのユトランド沖の海戦（英国とドイツ艦隊が初めて全面的に戦火を交える）で重傷を負いながら任務を全うし、病院に搬送されたが 1916 年 6 月 2 日、16 歳 6 ヶ月でこの世を去りました。英国国王は彼に「ビクトリア十字勲章」を授与し、また、B－P もこの少年の英雄的行為を記念し、称えるため、1916 年コーンウエル・スカウト章を制定し、若者の勇気ある行為に授与すると発表し、この章は今でも授与され続けています。

【スカウト運動 10 周年の国際大会】

Ｂ－Ｐは、第 1 次世界大戦が終わることを前提に 1918 年 6 月にスカウト運動 10 周年を祝して国際的な大会を開催したいと考えていました。　その目的について彼は「我々の理想と活動を世界に知ってもらうこと。世界中の若い人々に兄弟愛を喚起し、国際連盟（現国際連合）をより強固なものにすること。善良で幸福な市民であるために必要な基礎を、実践を通して教えること。」と書いています。

しかし、国際大会を計画していたにも拘わらず、スカウトたちを海外から招待するという案は後から思いつき、1920 年 7 月号「ヘッドクォーター・ガーゼット」に次のように書いています。

「この大会は、平和な時代の再来を記念するとともに、第 1 次世界大戦で命を落としたスカウトたちに敬意を表し、再建と、よりよい国際協調の時代の到来を告げるものなのです。海外のスカウトの招待なくしては、この大会は完璧なものとはなり得ないでしょう。　同盟国として戦った国々からだけでなく、中立の立場を貫いた国々、更には一時的といえ、敵国として我が国と戦った国々からもスカウトたちを招いてこそ、この大会は完璧なものになるのです。」

この思いが、1920 年 7 月 31 日に第 1 回国際ジャンボリーとしてロンドン・オリンピアで開催されましたが、それはその後に続くジャンボーとは、かなり趣きの違うものでした。　「ジャンボリーは大規模な屋内の展覧会のようなもので、目的は、一般の人々にスカウト運動というものを披露し、その活動の意味や面白さを知ってもらうことだった」と記されています。

【第 1 回国際ジャンボリーと国際会議の開催】

ロンドンのオリンピアで開催されたこの催しは、「ジャンボリー」と呼ばれることになりました。元は米語の俗語で（宴会、酒宴、お祭り騒ぎ）の意味ですが、B－P が発案したこの用語には反対もありました。また、世界中のスカウトを集めたい、という B－P の希望に対しても異論が出ました。（世界大戦が終わったばかりのこの時期に「国際親善」の考え方が余りにも理想的にすぎるとい

う反対理由でした。）

「ボーイスカウト」（中公新書；田中治彦立教大学教授著）では、“このジャンボリーを振り返るならば、国際連帯による世界団体としてのボーイスカウトを英国々民ならびに海外の人々に対して印象づけることができたという点で、スカウト運動史上、節目となる重要な出来事であった”と著されています。

このジャンボリーの開催によって国際会議（後の世界スカウト会議）を設立するという成果を生みました。　第1回国際会議は、ジャンボリー開催の2日前に開催され、(国際的な組織を設立すること)、(2年毎に国際会議を開催する)ことが決定されました。　その間の重要事項を扱う委員会（現　世界委員会）と事務局（現　世界事務局）を設けることが決まりました。　この時点での世界のボーイスカウト人口は101万9205人であったと報告されています。

第2回の国際会議は、1922年7月にパリで開催され、31ヶ国が代表を送り現在の国際組織の基礎となっている憲章（現　世界スカウト機構・基本原則）が採択されて、国際委員（現　世界委員）が選出されました。

第3回は、1924年デンマーク・コペンハーゲンで開催され「スカウト運動は国家的であり、国際的であり、普遍的である」という、とても重要な＜コペンハーゲン宣言＞が採決されています。

最近では、昨2014年8月、スロベニアの首都リュブリャナで第40回世界スカウト会議が開催され、日本から代表6名を含め25人が参加しています。

【閉会式のスピーチとチーフスカウトの推挙】

第1回国際ジャンボリー（第3回から世界ジャンボリーと改称）は、1920年7月31日の開会式で始まり、33ヶ国（日本はまだ連盟が組織されていなく準参加3名）約8,000名が参加しています。

B－Pの閉会式でのスピーチは　『スカウト兄弟諸君！　私は皆さんに大事な選択をお願いしたい。世界の人々には、言葉や体格の違いがあるように、思想や感情にも違いがあります。もしある国民が自分たちの考えを他国の人々に押しつけようとすれば、悲惨な結果が待っていることを戦争が教えてくれました。

しかし、ジャンボリーは、私たちに教えてくれたのです。我慢し、譲り合うことができれば、そこには共感と調和が生まれるのです。

皆さんの同意がここに得られるなら、断固たる決意をもって、私たちは今日ここから出発しようではありませんか。　世界に広がるスカウトの兄弟愛を通して、自分自身のなかにも、友人たちの間にも同胞意識を育て、世界に平和と幸福をもたらし、世界中の人々の間に友好の輪を広げるのです。

スカウト兄弟諸君！　さあ、答えてください。　諸君は、私と心をひとつにして出発してくれますか？』

世界中から参加したスカウトへのこの問いは、大変重いものと考えます。

大戦直後のこのとき、少し年長のスカウト仲間を戦争によって多く失った参加者へのこの呼びかけには、B－Pのこのジャンボリーとこれからのスカウト運動に　寄せる強い思いがあります。

ジャンボリー最後の日の閉会式、式典の最中に一人のスカウトが「万歳！世界のチーフスカウト」　この提案は熱狂的に支持され、B－P はこのとき「世界のボーイスカウトのチーフスカウト（総長）」に就任します。

【きらら浜で世界ジャンボリー開催】

第 1 回世界ジャンボリーから 95 年。　今夏　山口県きらら浜で日本では44 年振りに、2 回目（1 回目は、1971 年静岡県朝霧高原で第 13 回世界ジャンボリー開催）の第 23 回世界スカウトジャンボリーが開催されます。
諸外国からの代表約 2 万 5000 人を含めて世界中のスカウト約 3 万人が＜テーマ「和」－ a Spirit of Unity＞のもとに参集し、楽しく意味あるプログラムを体感し、協調して相互学習することになります。

一番大事なことは、テーマである「和」の意味を、例えば隣接の広島での「ピース　プログラム」の体験を通して体得して欲しいと強く願っています。

前記の第 1 回国際ジャンボリーでの B－P のメッセージが「兄弟愛と平和」であること。そして世界ジャンボリーではジャンボリーが開かれるごとにテーマを決めており、その時代に応じた内容を選択しています。

20 世紀が「戦争の世紀」とも云われたことを踏え、21 世紀が「平和の世紀」であることを願い、チリ・ピカルキンで 1998 年から 99 年にかけて開かれた第 19 回世界ジャンボリーではジャンボリーのテーマに「共に平和を築こう」を掲げ、世界中の若者に平和を築くために積極的な役割を果たすよう呼びかけました。

その呼びかけの中で「平和とは、ただ単に戦争がないことばかりでなく、すべての人々や社会に対する明確な態度をとり、暴力、貧困、偏狭、人種差別があること、また教育の機会が与えられないことを終焉にするための正義感や健康への配慮、安定した住居状況の中で平和が求められる」としています。

いま、中東をはじめ世界各地で争いや戦争が行われています。この時に日本で世界ジャンボリーを開催することは、テーマ「和」の意義を銘記することが大事であります。もし、このことを忘却すればB－P が願望した国際ジャンボリーの意義は消滅し、単なる「お祭り騒ぎ」に終ってしまうことになりかねません。

【みんな仲間だ、霊南坂スカウト】

霊南坂スカウトの創立 60 周年のとき　＜みんな仲間だ、霊南坂スカウト＞をテーマにし、霊南坂スカウトは現在もその想いは継続しています。＜みんな仲間だ＞は決して霊南坂スカウト仲間だけではありません。95 年前に B－P は第 1 回国際ジャンボリーでスカウトに向かって「スカウト兄弟諸君」と呼びかけ、世界中の人々が掛け替えのない一人ひとりであることを強く訴えています。

2 月 22 日が霊南坂スカウトの出発の記念すべき日であるとともに創始者 B－P 夫妻の生誕日であることを覚えて、霊南坂教会は 2 月 22 日の直前の聖日を「スカウトサンデー」と決めて共に礼拝を守っています。　B－P のキリスト教信仰に根差した「先ず、神の愛ありき」のスカウト運動であることを覚えてスカウト関係者とともに礼拝ができることに感謝しております。

スカウトサンデーを通してスカウト運動が教会の働きの一つである教会教育の枝であることを再確認します。スカウト・リーダー・保護者・スカウトクラブなどスカウト関係者が一人でも多くスカウトサンデーを感謝して参加し、チャーチスカウトとしての自覚を深めたいと願っています。

B－P の思いや理念なしにはこのスカウト運動の存在意義はありません。
2 月 22 日。団の誕生と創始者 B－P の生誕を記念しての「スカウトサンデー」にあたり、B－P の世界ジャンボリーに込めた思いを改めて再確認しつつ、私たちのスカウトの代表を 7 月の「和－a Spirit of Unity」をテーマとした＜第 23 回世界スカウトジャンボリー＞に送り出したいと思います。

この機会に霊南坂スカウト関係者が霊南坂教会のこと、仲間のこと、平和のこと、そして平和の祭典である“世界スカウトジャンボリー”のことを覚え、共に歩みたいと願っております。

以上

＜参考資料＞

ボーイスカウトが目指すもの
＜An Official History of Scouting＞：英国スカウト連盟
日本ボーイスカウト運動史：　ボーイスカウト日本連盟
ボーイスカウト（田中治彦著）：　中央公論社
第一次世界大戦（木村靖二著）：ちくま書房
パトロール・システム及び班長への手紙：　ローランド・フィリップス著

2015 年 2 月 21 日　団委員会・団会議資料
（公益財団法人ボーイスカウト日本連盟顧問・先達）

ローランド・フィリップスの「遺文」

この世を支える偉大なる精神と
その精神を導き示す愛のこころとに
およびまさるもの他にあらじ
そは、神を意味する。

そは、我等スカウトのすべてのものに
いみじくも浸みわたる。

スカウティングは神より生まれ
神はスカウトとともにいます

それゆえに、スカウトたちよ
なにひとつ、おそれるものなし
奉仕と犠牲とに励むならば
勝利は我等の手にあり

スカウトたちと共にあらば
いまも、また、末永くいつもいつも
すべては、さいわいならん

－1916年、フランス戦線にて（戦死直前・26歳）
ローランド・フィリップスー

（訳者は私たちの先哲である中村知氏。
Jack　Cox著　"Ideas for Rover Scouts"の中にある
ローランド・フィリップスの文であり、訳者は試みに
詩の形にして故人を偲んでいます）

ローランド・フィリップスは、英国初期のスカウトであり、ロンドンのイースト・エンドというスラム街の恵まれない少年たちのため、献身的な奉仕をし、今日残るローランド・ハウスという記念館とともに、クリスチャンとして、また、スカウトとして輝く業績を残した人であります。

第23回　世界スカウトジャンボリー

＜参加国と参加者数＞

102ヶ国、　2万5485名　（日本　6,000名を除く）

国名	参加申込者数（名）（参加者300名以上）	入金済　人数（名）	状況
イギリス	4,012	4,012	完納
アメリカ	1,510		未納
スウェーデン	1,400	1,399	過少
オランダ	1,044	1,044	完納
スイス	1,020	1,020	完納
ブラジル	1,000	279	過少
ドイツ	991	963	過少
イタリア	972	977	過多
フィンランド	964	964	完納
ノールエー	858	850	過少
台湾	800	1,119	過多
メキシコ	600	549	過少
香港	532	437	過少
ベルギー	528	528	完納
インド	499		未納
スロベニア	497	87	過少
バングラディシュ	480		未納
カナダ	422	319	過少
デンマーク	396	449	過多
オーストラリア	340	336	過少
ポルトガル	304	301	過少
アイルランド	303	318	過多
タイ	300		未納

（2015年2月2日　現在）

＜地域別＞

- ○ アフリカ地域　15ヶ国
- ○ アラブ地域　10ヶ国
- ○ アジア太平洋地域　19ヶ国
- ○ ユーラシア地域　2か国
- ○ ヨーロッパ地域　38ヶ国
- ○ インターアメリカ地域　18ヶ国

参加国　合計　102ヶ国